全国さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（大船渡地区部会）　岩手県大船渡市

事業実施者：綾里漁業協同組合　　使用船舶名：第八隆盛丸（19トン）

支 援 期 間 ：平成26年8月10日～平成29年8月9日　　（さんま棒受網漁業他）

（取組の内容）

- 省エネ船型、大口径プロペラ、減速機の採用、LED漁灯の導入、発電機の小型化、軽量化等による燃油使用量の削減
- 主機関の低重心化による船体復原性の改善、監視カメラの導入による安全性確保、サイドローラーの平坦化等による漁労作業の軽労化、エアコン搭載等による労働環境の改善、労働意欲の向上
- サンマの船上箱詰製品の生産による魚価の向上
- 閉鎖型荷捌き所を有し、高度衛生管理に対応した新魚市場・大船渡魚市場の整備、付加価値サンマの生産・販売による地域の活性化

大口径プロペラ

大船渡魚市場

（事業の成果）

- 主たる操業であるさんま棒受網漁業の平均販売単価が約72%向上（78円／kg→134円／kg・3ヶ年平均）したが、水揚量は漁場の遠方化等による航海数の減少により復興計画より約48%減少（1,100トン→567トン・3ヶ年平均）し、水揚金額76百万円（3ヶ年平均）は復興計画96百万円を下回った。償却前利益▲7百万円（3ヶ年平均）は復興計画の目標値（15百万円・3ヶ年平均）には及ばなかった。
- 主たる操業であるさんま棒受網漁業の燃油使用量は、漁場が沖合に形成され、魚群が散在したことから、航走距離及び探索・操業時間が増大し、復興計画の目標値を1年目28．7kl、2年目10．1kl、3年目1．0kl上回った。
- 従前と比較し,低重心化が図られ復原性が向上した。また、監視カメラの有効活用により事故の未然防止と船上作業の安全の確保が図られた。
- 地元においてサンマの魚食普及の橋頭堡構築が進捗した。また首都圏において「大船渡サンマ」が周知された。